



熊本YMCAユースボランティアリーダー 三島 琉偉 さん

YMCAとともに歩んだ20年

大学3年生、20歳にして「もうすぐYMCA歴20年」と語る「いるかリーダー」こと三島琉偉さん。ながみねファミリーセンターでのこともスポーツスクールの指導や東部グローバルコミュニティプラザで不登校の子どもたちを支援する「ぶらっとほーむ」でのボランティア、ユースボランティアリーダーを取りまとめる「熊本YMCAオールリーダー会」の役員などを担っています。

YMCAとの出会いは「まったく記憶にない」という生後10カ月の頃。親子で参加する水泳教室や体操教室を経て、体育英語幼児園に入園。その後も水泳教室や体操教室に通い、中学3年生まで続けます。高校での3年間は部活で体操競技をしながら可能な日はリーダーとして子どもたちと関わり、大学入学後に本格的なリーダー活動を始めました。

三島さんにとって、YMCAの先輩リーダーや職員は「自分の人生に大きな影響を与えてくれた存在」なのだそう。「小学校3、4年生の頃、自分でも理由は覚えていないけれど、友だちとうまくいかなかったり、学校に行きたくなくなったり、ふさぎ込んでいた時期がありました」。そんな三島さんを支えたのが当時、体操を教えていたリーダーなのだそう。「クラスが終わった後も気にかけてくれているのを感じて、次第に体操が楽しくなり、少しずつ前を向けるようになったんです。私がリーダーたちに憧れをいだいたように、子どもたちや後輩のリーダーに憧れられるリー



YMCAに通う幼少期の三島さん

YMCAで育ち、つながる人へ

ダーになりたい。自分が担当する子どもたちと一緒に活動できるリーダーが生まれてきてくれたら」と夢を語ります。

また一步成長できた

YMCAについて「多種多様な人との関わりを通して、成長させてもらっている」と語る三島さんは、5月に開催された「熊本YMCA定時会員大会」で副実行委員長を務めました。大会は、熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンターと阿蘇のサテライト会場をオンラインでつなぎ、YMCAのボランティア会員ら130名以上が参加。三島さんはその準備段階から関わり、当日は総合司会を務めます。「いい機会だと思った」と引き受けたものの、「自分でいいのかな」という思いもあったそう。大会は金曜日の夜18時半スタート。普段からリーダー活動で人前にでることに慣れていたはずの三島さんですが...。「18時半を指す時計を見た瞬間、緊張感が高まりました。リーダー会の時に発言する相手は同じ大学生ばかりなのに、『今日はスーツを着た人がいっぱいいる』と思って。昔、体操や水泳を教えてもらっていたリーダー（YMCA職員）たちもスーツを着ているし、知らない人もいっぱいいて...」。しかし、周りから見ると、堂々とした司会っぷり。大役を終えた今は、「楽しかった。やってよかった。また一步成長できたと感じました」と笑顔を見せます。



定時会員大会でユースボランティアリーダーの活動を紹介する三島さん

豊かな社会を目指して

今後の「野望」を尋ねると三島さんはこう答えました。「YMCAは『互いを認め合い、高め合う「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る』と謳っています。オールリーダー会で研修を重ねて、リーダー1人ひとりがなんのためにYMCAで活動しているのかを考え、YMCAや地域がよりよくなっていくために皆で行動していきたい」。

大学では、居住環境学を専攻し、地球環境や街づくり、SDGsについて学んでいるという三島さん。その進路を選んだきっかけもYMCAにありました。「YMCAでいろんな立場や年齢層、国籍の方と関わる中で、障がいがあるが、国籍が違っても、すべての人が住みやすい住環境をつくりたいと思ったんです」。大学卒業後は関東や関西など、県外での就職を予定していますが、いつかは熊本に帰ってくる、と宣言しています。「生まれ育った熊本で農地が住宅地にかわっていたり、海外企業の進出があったり、様々な変化がある中で、環境を守りつつ地球とどう一緒に生活できるか。自然豊かな熊本だからできることがあるはず。もちろんYMCAにも関わり続けます」そう力強く語る三島さんは、YMCAが目指すポジティブネットのある豊かな社会づくりを、自らの歩みの中で体現してくれることでしょう。

Pickup

リフレスおおむた特集

がまだす隊がリフレス散策



なんでもやる隊
火おこしに挑戦

みんな真剣
親子陶芸教室



仲間を増やすためにできること 熊本YMCA定時会員大会を開催



5月23日(金)、2025年度熊本YMCA定時会員大会を開催しました。熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンターを本会場とし、サテライト会場としてYMCA阿蘇キャンパスをオンラインでつなぎました。両会場あわせて、131名の会員が参加。第1部礼拝では、「世の光、地の塩」と題し、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団希望ヶ丘キリスト教会牧師の本堀秀一さんによる奨励が行われました(4面に掲載)。第2部表彰式では、会員在籍10年、20年、30年、40年、50年の皆さんがそれぞれ紹介され、表彰状と記念品が会長の吉本貞一郎さん、総主事の伊藤眞太郎さんから手渡されました。表彰者を代表して、50年表彰の堤弘雄さんから挨拶がなされました。

第3部報告会では、総主事の伊藤眞太郎さんが昨年度の事業報告、収支決算報告、及び監査報告、今年度の事業計画及び収支予算について報告。また、今年度は常議員の改選に伴い、常議員紹介がなされ期待の拍手が送られました。

第4部のグループディスカッションでは、グループに分かれ、「～共有・共感・共同～YMCAの仲間(会員)を増やすために私たちができること」というテーマで、「YMCAでよかったこと(経験)」等について意見交換を行いました。

終了後には、ユースボランティアリーダー主導のもと、歌を出席者全員で歌い、実行委員長の北條将人さんの挨拶で閉会しました。



第1部礼拝



50年表彰の堤さん



第3部報告会



グループディスカッションの様子

常議員信任投票報告

熊本YMCAの会員代表である常議員について、13名の新常議員候補者の選出が行われました。定時会員大会での信任投票の結果、継続の皆さんを含め、31名が常議員として決定しました。

麻生 尚哉
堤 泰之[○]
福嶋 義信[○]
松田 誠一[○]
森 律子[○]
伊藤 眞太郎

伊藤 七海
中村 英之[○]
藤田 香織
眞西 優治
両角 彰則

内村 忠生[○]
中村 陽志[○]
北條 将人
三上 充
山本 明子[○]

小川 祐一郎
西 章男
本田 節子
水元 裕二[●]
吉岡 久美

小泉 嗣[○]
林田 博文[●]
本堀 秀一
森嶋 道
吉村 千恵

田北 康一郎[○]
日野 充裕[○]
前田 香代子
森 博之[●]
吉本 貞一郎
(敬称略)

● 再任 ○ 新任

New

新しく常議員に
就任された皆さんを
紹介します



内村 忠生さん
みなみGCC運営委員会
せっかく頂きましたチャンスを生かし、世のため人のためYMCAのため努力します。



小泉 嗣さん
幼稚園運営委員会
大きな「育」の現場の中で、自らも学び成長する常議員を目指します。



田北 康一郎さん
むさしGCC運営委員会
初めての常議員ですが、自分の経験が生かせるといいなあとってます。



堤 泰之さん
学校運営委員会
専門学校建築科の卒業生です。子どもたちが幸せに生きる未来の為に頑張ります。



中村 英之さん
学校運営委員会
何も分からず、これからの私ですが、若い方たちの思いに応えていきたい。よろしく。



中村 陽志さん
みなみGCC運営委員会
Go! Go! の55歳になりました。私のすべきことを最善を尽くして。



林田 博文さん
本館／GCC運営委員会
これまでの経験知を活かし、熊本YMCAの運営・活動に貢献したいと考えています。



日野 充裕さん
東部GCP運営委員会
地域に必要とされるYMCAとなるように、少しでも働くことができれば幸いです。



福嶋 義信さん
むさしGCC運営委員会
保育団体の役員活動を卒業、お声かけいただきました。恵みと導きに感謝します。



水元 裕二さん
幼稚園運営委員会
社会に今まで以上に必要とされるYMCAになるように協力していきたい。



森 博之さん
リソース推進委員会
2年振りに帰ってきたら副議長の大役を仰せつかり身が引き締まる思いです。



森 律子さん
ICR・メンバーシップ委員会
初めての役割に心落ち着きませんが...よろしくお願いいたします。



山本 明子さん
本館／GCC運営委員会
まだまだひよっ子ですが、故郷熊本愛は誰よりも持っているつもりです。



6月19日(木)、新常議員を含めた新体制で開催した第527回常議員会で、新任の皆さんに委嘱状が授与されました。

R | E | P | O | R | T

ユース

ユースエンパワーメント オールリーダー入会式を開催



ユースボランティアリーダー 田中来実

6月1日(日)に熊本YMCAオールリーダー入会式が開催され、31名のユースボランティアリーダーが参加しました。初めに、自己紹介の場を持ち、名前や所属だけでなく、今の気持ちを漢字1文字で表現しました。楽しみの「楽」や緊張の「緊」などそれぞれの想いに耳を傾ける時間をとりました。

午前中は、熊本YMCA総主事の伊藤眞太郎さんによるリーダー研修会が行われました。「リーダー

とは何か」「私たちは何のために生きているのか」について考え、グループで話し合いました。全体で共有するという活動を通して、他のリーダーの熱い想いを知る機会となりました。

昼食後は、レクリエーションなどを通して交流を深めることができ、とても有意義な時間となりました。午後の式典では、ユースボランティア委嘱状がリーダー一人ひとりに手渡されました。これから1年気を引き締めて頑張ろうと思いました。



花の日

ぶどうの木体育英語幼児園 熊本南警察署を訪問



ぶどうの木体育英語幼児園 上村智美

「花の日」はアメリカ発祥の教会行事です。毎年6月の第2日曜日がその日にあたります。みなみグローバルコミュニティセンターで活動する「ぶどうの木体育英語幼児園」は、地域の皆さんに感謝の気持ちを込めて毎年お花を届けています。

今年の5歳児バンピクラスは熊本の安全を守る南警察署の皆さんに感謝の気持ちを伝えるため訪問

しました。家庭から持ち寄ったお花や手作りのプレゼントを感謝の言葉と讃美歌「この花のように」と共に贈りました。

警察署の職員から事故に遭わないよう「とまと」のお約束や誘拐などの危険から身を守る「いかのおすし」のお約束を教えられ、園児たちは真剣に話を聞いていました。しっかり学んだご褒美にパトカーとの記念撮影だけでなくお土産もあり、園児たちは大喜びでした。



社会貢献

子どもたちのために チャリティボウリング大会を開催



YMCAフィランソピー協会事務局 作本達朗

6月13日(金)、YMCAフィランソピー協会が「第20回チャリティボウリング大会」をボウリング王国スポーツ熊本店で開催。8つの企業・団体から17チームが参加しました。

本大会の益金は、海外にルーツを持つ子どもたちの支援に用いられます。開会式では、益金を送る「NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと」の副理事長の畠山真一さんから「様々な困り感

を持つ子どもたちがたくさんいます。ありがたく用いさせていただきます」と挨拶がなされました。始球式では、昨年の優勝チームかつハイスコア賞を獲得した参加者が、見事ストライクを決めました。

ゲームは1チーム4名で2ゲーム行い、その合計得点で競います。ストライクを出すごとに、100円の募金をするチャリティストライクや抽選会も実施。第20回大会の優勝チームは、肥後銀行から出場の「肥後銀行②」。上位3位以外にも飛び賞が設けられ、本大会は大いに盛り上がりしました。



熊本YMCA 総主事 伊藤 眞太郎

マ

ナ

Vol.4

「隣人」として祈るということ

私が原稿を書いている今日は、6月6日——YMCAの創立記念日として知られています。1844年、ロンドンでジョージ・ウィリアムズという青年が仲間と共に、祈りと行動の共同体を立ち上げました。やがてそれは「YMCA」という名で世界に広がりました。

先日、「平和の礎」に関する報道を目にしました。この碑には、国籍や立場を超えて、沖縄戦で命を落としたすべての人々の名が刻まれている

ます。日本人だけでなく、アメリカ、朝鮮半島・台湾の人々も含まれ、軍人か民間人かの区別もありません。そこにあるのは、どの命も等しく尊ばれるという、祈りのまなざしです。

聖書には「善きサマリア人」のたとえ話があります。道に倒れていた男を、宗教的・社会的に高い立場の人々は見て見ぬふりをしました。手を差し伸べたのは、当時差別されていたサマリア人でした。イエスは最後にこう語ります。

「行って、あなたも同じようにしなさい。」

この物語が私たちに投げかけるのは、「誰の隣人になるのか」という問いです。国籍でも、信条でも、文化でもない。苦しむ人のもとへ近づこうとする者こそが、隣人なのです。

19世紀、イタリアの戦場で、静かにこの問い

に応えたアンリ・デュナンという男がいました。彼は、戦闘の中で倒れた兵士たちに、敵味方を問わず手を差し伸べました。その経験は赤十字運動の原点となり、彼は世界で最初のノーベル平和賞を受賞します。実はデュナンは、YMCA世界同盟の創設にも携わった人物の一人です。キリスト教の信仰と実践が結ばれるところに、彼のまなざしも確かにあったのです。

「誰かの隣人になる」ということは、日々の姿勢に表れます。目立たないかもしれませんが誰かを想い、心を寄せるその一歩が、今日もどこかで、小さな希望を生み出しています。

1844年にロンドンではじまった歩みの輪は、いまなお、時代を越えて人と人をつなぐ力として、静かに広がり続けています。

I n f o r m a t i o n

セミナー & 企業交流会 外国籍人材との共創が導く 持続可能な組織

企業と企業人の社会貢献を推進するYMCAフィランソロピー協会がセミナー & 企業交流会を開催します。海外企業の進出や人材不足など、熊本企業のを取り巻く環境が変化中、外国籍人材が活躍する企業として注目される「九州教具株式会社」の事例から学び、外国籍人材との共創が導く持続可能な組織について考えましょう。セミナー終了後は、異業種の企業人同士が語り合う企業交流会も実施します。

日 7月11日(金) ※要申込み

フィランソロピーセミナー

時間 16:30～18:00 (受付16:15～)

場 熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンター (熊本市中央区段山本町4-1)

講師 九州教具株式会社

代表取締役社長 船橋修一さん

費 無料

企業交流会

時間 18:45～20:45 (受付18:30～)

場 ビュッフェレストランぎんなん(城彩苑内)

※名刺をご持参ください。※プレゼント交換(300円程度)があります。ご準備ください。

費 4,800円

定 各40名

問 YMCAフィランソロピー協会事務局

Tel 096-353-6397

詳細・お申込みはこちら▶



ワイズメンズクラブ リレーコラム

新連載

YMCAとワイズメンズクラブの共存共栄

熊本ワイズメンズクラブ 津末 啓二

2月は熊本ワイズメンズクラブの創立75周年記念の例会を行いました。国内外から102名の参加でした。熊本ワイズメンズクラブは九州で最も歴史のあるクラブで、各方面に寄付や広範囲のボランティアも行っていました。毎年、海外では韓国大邱クラブと日韓交流を、国内では熊本県立盲学校とボニーキャンプを、YMCAを支援することで実行してきました。今後もじゃがいもファンドの資金でYMCAと共存共栄で社会貢献を行ってまいります。又、活動の露出度を上げ、一般市民にも応援していただけるクラブにしたいと思います。

ワイズメンズクラブ国際協会はYMCAをサポートするボランティアの人々による世界的な奉仕団体です。熊本県内に10のクラブがあります。今号からリレーコラムでワイズメンズクラブのことをご紹介します。



日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 案 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

定時会員大会奨励より抜粋

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団希望ヶ丘キリスト教会

本堀 秀一



マタイによる福音書
5章13節～16節

あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩味がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。

世の光、地の塩

「あなたがたは地の塩である」、「あなたがたは世の光である」。この「塩」と「光」には異なる性格があります。

「光」は目に見える働きといえます。困難の中で苦しむ人への目に見える働き、ボランティアであれ、支援活動であれ、世界が必要とする、「愛と平和」を実現する営みはみな「光」の働きといえます。

塩は光と違います。塩はその姿を消して見えなくなることで塩としての働きをします。部屋の中で誰にも知られずに他者のために「祈る」ようなものでしょう。誰の目にも見えない、しかしその祈る働きによって、祈られる人がより良く生きることが可能となります。例えば募金活動などもそれに入るでしょう。

無数の人の助けにより、今私たちはここにいます。私たちも塩の恩恵にあずかっているのです。このように匿名化された働きが「塩」の役目なのです。この光と塩は対極にあります。が、共通の意味合いも持っています。それはイエスの言葉によって人々が新しい人生を踏み出したように、「人を生かす」という働きではないかと思えます。

私たちの働きは単に手助けするだけでなく、その先を見据えた働きだと思えます。私は『見つかる。つながる。よくなっていく。』という言葉が大好きです。これらは全部、生きることにつながっていくからです。見つけるために、つながっていくために、そして今より良くなっていくために、サポートしていくのが、私たちの働きだということです。それが結果的にその人の人生を生かしていくことにつながっていくのではないかと思います。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)

発行人／伊藤 真太郎 編集／熊本YMCA ICR
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



公式LINE

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2025年度基本聖句

何事も愛をもって行いなさい
コリントの信徒への手紙一 16章14節